

## 「第4次高齢者保健福祉計画・第3期介護保険事業計画」の現状と課題について

## ◎ 趣 旨

平成18年3月に策定した「第4次高齢者保健福祉計画・第3期介護保険事業計画（平成18～20年度）」に基づき、4つの基本目標を定めて計画的に施策事業の実施に取り組んでいるが、その進捗状況を取りまとめたことから、現状と課題について協議するもの

## 1 基本目標1「健康ではつらつとした生活の実現」

高齢期においても健康で充実した生活を送ることができるよう、生活習慣を改善し健康を増進する1次予防を推進するとともに、疾病の早期発見・治療を図ります。また、寝たきり状態にならないよう、介護予防事業を推進します。

## (1) 主要事業の取組状況と評価

◆ 健康づくり実践活動の推進

- 健康づくり推進員の養成講座や全体研修会を通して、人材の確保や育成、地域における健康づくり推進組織の設立の支援に取り組む、目標を達成している。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
健康づくり推進組織の設立 地区数	目標値	21地区	22地区	23地区
	実績	18地区	22地区	
	達成率	85.7%	100%	

◆ 健康診査の実施

- 基本健康診査やがん検診等を実施し、集団健診の回数を増やすとともに、集団健診からの個別化を図るなど受診率の向上に努めたが、受診率は健診によりばらつきがあり、目標を下回ったものが多い。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
基本健康診査受診率	目標値	32.9%	33.4%	(33.7%)
	実績	29.3%	29.2%	
	達成率	89.1%	87.4%	

(平成20年度目標値：特定健診導入前に設定)

※ その他の健康診査は個別評価表に掲載

◆ 訪問指導の実施（生活習慣病予防）

- 健康診査の結果、要指導・要医療・要精密検査と判定された者に対して、保健師による訪問指導に取組んだものの、目標を下回っている。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
訪問回数	目標値	420回	425回	430回
	実績	227回	233回	
	達成率	54.0%	54.8%	

◆ 健康教育の実施（生活習慣病予防）

- 生活習慣病予防のための健康教育に取組み、概ね目標を達成している。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
開催回数	目標値	120回	110回	100回
	実績	86回	140回	
	達成率	71.7%	127.3%	

◆ 訪問指導の実施（介護予防）

- 訪問看護師等による指導に取組んだものの、特定高齢者の把握が見込みを下回ったことから目標を達成できていない。
- なお、全国的な傾向として、特定高齢者の把握が見込みを下回っている。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
訪問回数	目標値	3,008回	3,112回	3,216回
	実績	1,986回	1,592回	
	達成率	66.0%	51.2%	

(2) アンケート結果の評価

● 介護予防に関する取組の認知度が低い

- 「訪問指導(59.4%)」「健康相談(50.4%)」がともに半数は超えているものの、それ以外の「介護予防教室(46.0%)」や「生活機能評価(33.9%)」などは、半数を下回っていることから、啓発・周知に努める必要がある。

● 特定健診の認知度が低い

- 「知っている(28.5%)」が約3割であるが、「受診したいが、どのように受けたらよいかわからない(50.8%)」が5割以上もあることから、今後とも、健診のしくみや特定健診の受け方等について幅広く周知する必要がある。

● 地域包括支援センターの認知度が低い

- ・ 高齢者の約6割が「知らない」と答えていることから、センターの機能や介護予防事業を十分に理解してもらい利用促進を図る必要がある。

(3) 現状・課題

● 健康づくりの推進

- ・ 地域の健康づくり推進組織の設立や、健康相談・健康教育の実施は計画的に推進されているものの、健康教育に壮年期の参加が少なかった。

- ・ 健康づくり推進組織の全地区設立
- ・ 健康づくり推進員の養成
- ・ 健康教育の充実

● 生活習慣病予防対策の推進

- ・ 健康診査や訪問指導などの一部で目標を達成することができなかった。

- ・ 健康診査事業の受診率、受診者の向上
- ・ 健康診査の効果や生活習慣病予防の正しい理解促進

● 介護予防の推進

- ・ 要介護状態等になることを予防するための特定高齢者の把握が見込みを下回ったことから、介護予防事業全般で目標を下回った。

- ・ 地域包括支援センターのPR強化
- ・ 地域包括支援センターを有効活用した介護予防事業の積極的な推進

## 2 基本目標2「生きがいのある生活の実現」

生涯にわたり交流の場を広げ、学習・文化・スポーツなどの社会活動に自らの意思で積極的に生きがいをもって参加できるよう、環境を整備します。

### (1) 主要事業等の取組状況と評価

#### ◆ 高齢者外出支援事業の推進

- ・ 高齢者の外出を促進するため、バスが利用できる専用バスカードの購入助成に取組み、順調に推移しており、目標を達成できている。
- ・ さらに、平成20年度には助成対象年齢の引下げや、地域内交通等選択制の導入を図るなど拡充に努めた。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
専用バスカード利用者数	目標値	6,408人	6,700人	6,990人
	実績	6,433人	7,492人	
	達成率	100.4%	111.8%	

#### ◆ 団塊シニア世代の総合相談センターの設置

- ・ 豊富な知識や経験を持った団塊世代をはじめとするシニア世代が、本市の進めるまちづくりや地域福祉の展開に一層活躍できるとともに、第2の人生を健康でいきいきと暮らすことができるよう支援するため、中核市では初めてとなる「みやシニア活動センター」を平成20年7月に開設した。

### (2) アンケート結果の評価

#### ● 老人クラブや自治会活動のニーズ低い

- ・ 高齢者の生きがいは、「スポーツ（健康づくりの運動なども含む）(21.4%)」が最も多く、高齢者の健康への関心が強くなってきている。
- ・ 一方で、「老人クラブ活動(7.1%)」や「町内会・自治会活動(7.2%)」に生きがいを感じている人の割合は低いことから、加入促進を図る必要がある。
- ・ また、「ボランティア活動」は「現在活動している人(8.0%)」の割合は少ないものの、「これからやってみたい人(12.2%)」が、現在活動している人の割合を4.2ポイントも上回っていることから、地域活動への参加促進を図る必要がある。

#### ● 市の主催講座の学習ニーズ高い

- ・ 高齢者の学習方法は、平成17年度調査結果同様に「市が主催する講座(27.4%)」を利用したいが最も多く、「民間カルチャーセンター(9.9%)」や「大学・専門学校(2.7%)」を利用したいニーズは低い。

- ・ しながら、民間学習機関の学習機会も充実していることから、官民の適正な役割分担のもと、連携協力しながら学習情報のPR等に努める必要がある。

### (3) 現状と課題

#### ● 生きがいづくりの推進

- ・ 老人クラブの会員数は年々減少しているものの、老人福祉センターや生涯学習センター等における学習機会は充実しており、概ね目標を達成できている。

- ・ 関係機関や関係施設との適正な役割分担による学習機会の充実

#### ● 社会参画の推進

- ・ 助成対象年齢の引下げや地域内交通等選択制の導入を図るなど、高齢者の外出支援事業の拡充に取り組んでおり、着実に目標達成ができている。

- ・ 「みやシニア活動センター」を開設し、団塊世代をはじめとしたシニア世代の知識や経験を地域に生かすことができるよう支援している。

- ・ 知識や経験を生かしたシニア世代の活躍の支援
- ・ 庁内関係部局や関係機関と連携・協力した支援体制づくり

### 3 基本目標3「安心して自立した生活の実現」

何らかの支援が必要な高齢者に対して、介護保険サービスはもとより、在宅・施設福祉サービスをこれまで以上に充実します。また、地域の住民・団体や企業、市がそれぞれの責任と役割をもち、高齢者を支えていく体制を整えます。

#### (1) 主要施策・事業等の取組状況と評価

##### ★ 介護保険事業の推進

- ・ 居宅サービスは、利用者数、利用回数ともに概ね計画どおり推移した。
- ・ 地域密着型サービスは、サービス提供基盤の整備が遅れており、見込みを下回っている。
- ・ 施設サービスは、特別養護老人ホームや介護老人保健施設が概ね計画的に整備されている。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
訪問介護（ホームヘルプサービス）	目標値	380,913回	415,329回	453,845回
	実績	536,832回	487,431回	
	達成率	140.9%	117.4%	
小規模多機能型居宅介護	目標値	1,834人	2,108人	2,199人
	実績	22人	446人	
	達成率	1.2%	21.2%	
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	目標値	1,130人	1,242人	1,302人
	実績	1,160人	1,157人	
	達成率	102.7%	93.2%	

##### ◆ 地域包括支援センターの設置・事業の推進

- ・ 日常生活圏域ごとに25箇所の地域包括支援センターを設置した。
- ・ 同センターは、介護予防マネジメントや権利擁護事業等を一体的に実施する高齢者福祉の拠点として、地域の高齢者に対する総合的なマネジメントを行い、介護予防事業や特定高齢者把握事業などの事業に取り組んだ。
- ・ 平成20年度には、栃木SCと連携した予防事業や、センター職員増員による介護予防事業の充実に取り組んだ。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
地域包括支援センター整備箇所数	目標値	23箇所	23箇所	23箇所
	実績	25箇所	25箇所	
	達成率	108.7%	108.7%	

#### ◆ ひとり暮らし高齢者等安心ネットワークシステムの推進

- 本市では、ひとり暮らし高齢者や障がい者などを見守るための体制づくりに取り組んでおり、平成19年度末現在、385自治会（全789自治会）で開催しており、概ね目標に達しているものの、地域間格差が生じており市全域に展開できていない。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
見守り活動会議を開催した単位自治会の割合	目標値	42.4%	56.8%	71.2%
	実績	46.9%	48.8%	
	達成率	110.7%	85.9%	

#### ★ 認知症高齢者対策の推進

- 認知症の予防、早期発見・早期対応の推進するため、25箇所の地域包括支援センターを整備し、地域における相談体制が充実している。
- 平成20年度より、国の「認知症サポーター100万人キャラバン事業」の一環として、認知症サポーター養成講座に取り組んでおり、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるような環境を整備している。

#### ◆ 緊急通報システムの充実

- ひとり暮らし高齢者等の急病等に迅速かつ適切に対応するため、自宅への緊急通報装置の設置に取り組み、順調に推移している。
- さらに、平成20年度には、緊急通報機能に相談機能を付加した業務委託方式に変更するなど事業の充実に努めた。

### (2) アンケート結果の評価

#### ● 地域包括支援センターの認知度低い

- 地域包括支援センターの認知度は、高齢者は「知っている」が38.4%であるのに対して、若年者はわずか25.9%であることから、センターの認知度向上のため啓発活動の強化が必要である。

#### ● 介護予防事業や保健・福祉サービスの認知度低い

- 市が実施する介護予防事業や保健・福祉サービスは、事業によってばらつきはあるものの、全体的に認知度が低いことから、さらに普及啓発に努める必要がある。

#### ● ケアプランの満足度高い

- ケアプランに対する満足度は、87.4%が満足と答えているが、利用回数が少ないという不満もあったことから、介護給付の適正化やサービスの質の向上に努める必要がある。

● **介護保険の若年者の認知度低い**

- ・ 介護保険の認知度は、高齢者の 54%が「知っている」と答えており、平成17年度調査よりも13ポイント上昇した。
- ・ 一方、若年者は、平成17年度調査よりもわずか2.3ポイント上昇はしたものの、29.4%しか「知っている」と答えていないことから、さらに第2号被保険者に対する制度や保険料についての理解を促進する必要がある。

(3) **現状と課題**

● **介護保険事業の推進**

- ・ 地域密着型サービスや介護予防事業が目標に達しなかったものの、その他のサービスについては、概ね適切なサービスの提供が図られている。

- ・ **介護サービスの質の向上**
- ・ **提供基盤の整備促進**
- ・ **高齢者が充実した介護サービスを受けられる仕組みづくり**

● **福祉サービスの充実**

- ・ 緊急通報システムの充実や、外出支援事業の拡充を図るなど在宅福祉サービスの充実に着実に取り組んでいる。
- ・ 民間によるケアハウスの整備を計画的に進めており、施設福祉サービスも順調に推移している。

- ・ **在宅福祉サービスの充実**
- ・ **施設福祉サービスの計画的な整備**

● **地域保健・福祉体制の推進**

- ・ 保健と福祉に関する総合相談窓口や、地域における保健福祉サービスの拠点を計画的に整備するとともに、出前講座やボランティアの養成など各種講座を順調に実施している。

- ・ **ひとり暮らし高齢者の見守り体制の整備**

● **サービスの質の向上**

- ・ 社会福祉法人の指導監査を実施することにより、サービスの質の向上を図るとともに、訪問介護員の養成講座や県と連携したケアマネジャーへの研修会を通じて人材の育成や確保に取り組んでいる。

- ・ **各種研修会や指導監査の実施**
- ・ **適正なサービスを提供する事業者の育成・支援**
- ・ **国や県と連携した人材の確保や育成の充実**



● **認知症高齢者対策の推進**

- ・ 認知症に対する理解や正しい知識の普及，地域包括支援センターにおける相談体制の充実が図られた。

- ・ 認知症に対する理解や正しい知識の普及
- ・ 認知症高齢者の早期発見・早期対応などの体制づくり

● **高齢者の権利擁護の充実**

- ・ 日常生活圏域ごとに25箇所の地域包括支援センターを設置し，介護予防マネジメントや権利擁護事業等を一体的に実施する高齢者福祉の拠点として，地域の高齢者に対する総合的なマネジメントに取り組んだ。

- ・ 地域包括支援センターの有効活用
- ・ 成年後見制度や権利擁護センター「あすてらすうつのみや」の普及啓発

## 4 基本目標4「快適で安全安心な生活の実現」

高齢者が住み慣れた地域社会で自立し、安心して日常生活や社会生活を送れるよう、高齢者を思いやる心をはぐくむ「こころのバリアフリー」や、積極的な社会参画を促進するため、生活環境のバリアフリーを一体的に推進します。

### (1) 主要事業の取組状況と評価

#### ◆ 公園のバリアフリーの推進

- ・ 高齢者をはじめとするすべての市民が安心して利用できるよう、利用頻度の高い街区公園を中心に、公園の出入口や水飲器等のバリアフリーを計画的に進めており、目標を達成している。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
バリアフリーを図った公園数	目標値	77公園	83公園	89公園
	実績	82公園	88公園	
	達成率	106.5%	106.0%	

#### ◆ 道路のバリアフリーの推進

- ・ 高齢者をはじめとしたすべての市民の移動の円滑化を図るため、安全な補導の連続整備や、交差点のバリアフリーを計画的に進めており、目標を達成している。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
道路の段差解消箇所数	目標値	1,026箇所	1,226箇所	1,420箇所
	実績	1,836箇所	1,984箇所	
	達成率	178.9%	161.8%	

#### ◆ 広報紙等を活用した情報提供の推進

- ・ 広報紙やホームページへの掲載、リーフレット等の配布を通して、各種制度の周知や啓発記事、生活関連情報・各種イベント等を分かりやすく提供した。

#### ◆ 高齢者にやさしい住環境整備補助事業の充実

- ・ 要介護認定高齢者を対象に継続して在宅での日常生活を送れるよう、居室、浴室及び便所等の改修工事に要する経費の一部を助成しているが、補助件数は目標に下回っている。

指標名	項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度
高齢者にやさしい住環境整備補助件数(累計)	目標値	66(467)件	67(534)件	70(604)件
	実績	35(430)件	35(465)件	
	達成率	53.0%	52.2%	

## (2) アンケート結果の評価

### ● 高齢者の近所付き合いが希薄

- ・ 高齢者の近所付き合いは、「仲の良い人と行き来している」「会えば親しく話をする人がある」が6割以上となっているが、「あいさつする程度(30.1%)」は前回比べて、2.9ポイント上昇していることから、地域の交流が必要である。

### ● 住宅の老朽化

- ・ 高齢者が住まいで不便を感じたり困っていることは、「特にない(40.0%)」が最も多く、高齢者の4割は現在の住宅に満足している。
- ・ 一方、不便や困っていることは、「住宅が老朽化している(11.7%)」「交通の便が悪い(11.5%)」の順になっていることから、住み慣れた地域で日常生活を送ることができるよう老朽化した住宅の改修等を促進する必要がある。

## (3) 現状と課題

### ● 公共的施設のバリアフリーの推進

- ・ 道路や公園など市民の利用の多い施設を計画的に整備してきたが、小中学校や地区市民センターにおける障がい者用トイレやエレベーターの整備が求められている。
  - ・ 市民生活に直結する身近な施設のバリアフリー化

### ● こころのバリアフリーの推進

- ・ 広報紙による周知啓発や「宇都宮市民福祉の祭典」の実施などを通して市民の理解を深めている。
  - ・ イベントや身近な交流活動を通じた福祉のこころをはぐくむ人づくり

### ● 安全で安心な暮らしの確保

- ・ 交通安全教育や防犯講習会等の実施を通して、意識啓発を図っているものの、災害時要援護者に対する地区支援班の設置については、地区により取り組みに差異が生じており、39地区設置の目標を下回った。
  - ・ 交通安全教育や防犯講習会等の実施を通じた啓発
  - ・ 早急な災害時の支援体制の整備

### ● 高齢者にやさしい居住環境の整備

- ・ シルバーハウジングの充実に計画的に取り組んでいるものの、住環境補助整備事業については、利用者が伸び悩んでおり目標を下回った。
  - ・ 住み慣れた地域で日常生活を送れるよう居住環境の整備

## 2 まちづくり戦略プランと戦略プロジェクト

### 戦略 I ▶▶▶

うつのみや  
“幸せ力”  
アップ  
戦略

培った豊富な経験・知識・技術を  
生かす!

### project 2

## “げんき高齢者パワー”地域づくり 応援プロジェクト

高齢者が生きがいを持ち、自己実現を  
果たしながら、心豊かに元気に暮らして  
いけるよう、高齢者の生活の質の向上を  
図るため、団塊・シニア世代の暮らしの  
支援、就労や地域貢献への支援・活用、  
交流人口・定住人口の増加促進など、  
さまざまな観点から横断的に取り組む  
とともに、次の施策・事業を集中的に  
展開し、うつのみやの“幸せ力”アップを  
図ります。



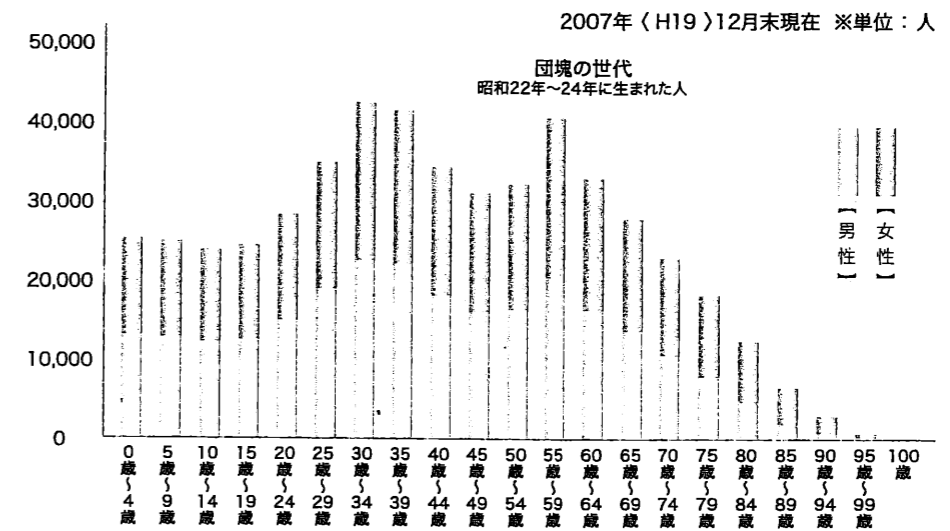
### ① 高齢者の健康づくりの推進

事業概要

- ◆健康づくり推進体制の整備・支援
  - 地域における健康づくり推進員の養成・意識啓発活動
  - 地域における健康づくり実践活動への支援
- ◆地域における介護予防事業の推進
  - 普及啓発事業、地域別「介護予防事業プラン」の作成・実践
  - 一般高齢者向け介護予防マネジメントの実施

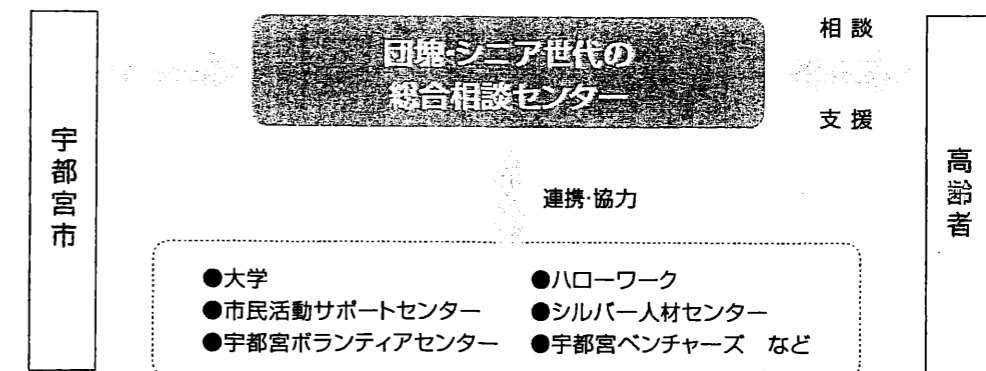
5年後の目標  
(H24の状態)  
☆☆☆

### 【宇都宮市の年齢別人口】



### 【団塊・シニア世代の総合相談センターの設置】

〈事業イメージ〉



凡例

- 整備、実施/達成目標への到達 …☆☆☆
- 一部整備、一部実施 …☆☆
- 事業着手 …☆
- 計画・構想策定等 …☆
- 実施中 …→

### ① 団塊・シニア世代の総合相談センターの設置

事業概要 ◆地域活動の相談、生活設計相談、就業・起業相談、研修・資格取得の相談 等

5年後の目標  
(H24の状態)

☆☆☆

### ② 高齢者の社会活動支援の充実

事業概要

- ◆高齢者の生きがいづくりの推進
  - 老人福祉センター事業の充実
- ◆高齢者の外出支援の充実
  - バスカード支給
  - 福祉有償運送事業者の指定支援
- ◆高齢者の就労支援の充実
  - シルバー人材センターへの支援
  - 就労相談

5年後の目標  
(H24の状態)

☆☆☆

基本施策

2

現状課題

取組の基本方向

基本施策目標

# 高齢期の生活を充実する

高齢社会や核家族化の進行、単身世帯の増加に加え、地域において高齢者を支え合う体制が十分ではない中、介護を必要とする高齢者が増加しています。一方、豊富な経験、知識、技術をもった団塊世代が定年退職により地域へ戻ってきています。こうした中、高齢者がいつまでも、介護を必要とせずに、住み慣れた地域で、健康で生きがいをもって安心して暮らせるよう、高齢者の生活の質の向上を図ることが重要になっています。

「高齢期の生活を充実する」ため、健康の維持や介護予防の推進による「高齢者の自立促進」、生涯にわたり社会の中で活躍できる機会の充実を図るための「高齢者の生きがいづくりの充実」、住み慣れた地域での自立した生活を支援するための「介護保険事業の充実」に、重点的に取り組めます。

高齢者が自らの介護予防に積極的に取り組み、住み慣れた地域の中で生きがいをもって、充実した生活を送っています。



重点事業

事業名	目的	内容	スケジュール	
			前期	後期
介護予防の推進	元気な高齢者の増加や要介護高齢者等の減少を図るため、地域において介護予防を推進する。	◆地域における介護予防事業の推進 ・普及啓発事業、地域別「介護予防事業プラン」の作成・実践 ・一般高齢者向け介護予防マネジメントの実施		→
認知症高齢者の予防、早期発見・早期対応の推進	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症高齢者の予防、早期発見、早期対応を図る。	◆相談体制の充実 ・地域包括支援センターの機能の充実 ・健康相談、地域における保健・福祉サービスの提供、介護保険なんでも相談窓口の設置 ◆発症予防、早期発見の推進 ・健康診査、健康教育、健康相談、訪問指導の実施		→
高齢者の社会活動支援の充実	高齢者の生きがいづくりの推進	◆老人福祉センター事業の充実 ・各種教養講座、健康づくり教室の開催 ・交流事業の実施		→
	高齢者の外出支援の充実	◆バスカードの支給(自動車免許返納高齢者を含む) ◆福祉有償運送事業者の指定の支援	○	→ (拡充)
	高齢者の就労支援の充実	◆シルバー人材センターへの支援 ◆就労相談の実施		→
団塊・シニア世代の総合相談センターの設置	団塊世代を中心とするシニア世代の経験や知識を地域に生かすとともに、第二の人生を健康で生き生きと暮らすことができるよう、総合相談センターを設置する。	◆情報発信機能の充実 ・団塊・シニア向けHPの開設 ◆相談機能の充実 ・生活設計、就業・起業、研修・資格取得等の相談窓口の開設	○	→ (拡充)

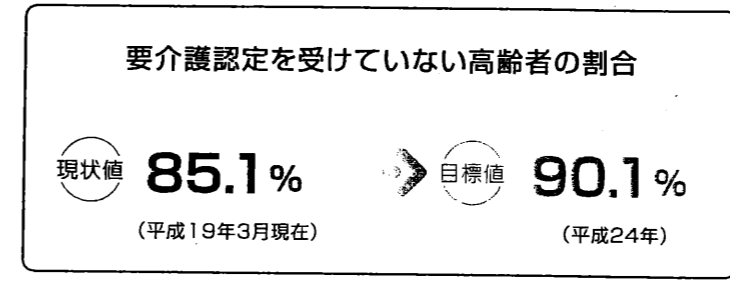
●施策の体系

1 高齢者の自立促進

■施策目標

高齢者が健康で自立した生活を送っています。

■施策指標

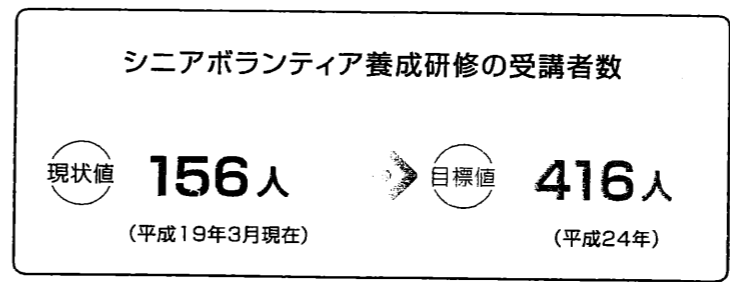


2 高齢者の生きがいづくりの充実

■施策目標

高齢者一人ひとりが尊厳を持ち、元気に生き生きと暮らしています。

■施策指標

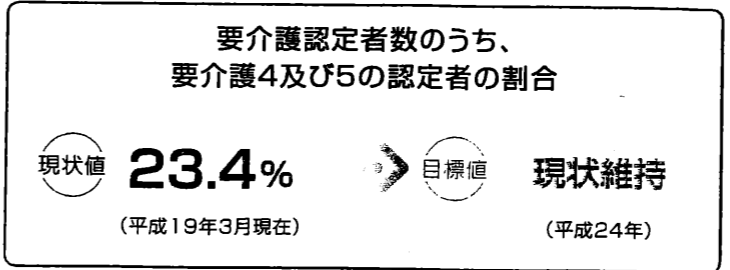


3 介護保険事業の充実

■施策目標

介護予防が効果を上げているとともに、適正な介護サービスが提供されています。

■施策指標



●基本事業

・主要な事業

- 介護予防対策の充実
  - ・介護予防の推進
  - ・地域支援事業の推進
  - ・居宅サービス(予防給付)の推進
- 認知症高齢者対策の推進
  - ・認知症高齢者の予防、早期発見・早期対応の推進
  - ・専門的な高齢者ケア体制の整備
  - ・認知症高齢者が暮らしやすい地域づくりの推進

●高齢者の社会との交流促進

- ・高齢者の生きがいづくりの推進
- ・老人クラブ活動の育成・支援
- ・学習・芸術・スポーツ活動の促進
- ・団塊・シニア世代の総合相談センターの設置

●高齢者の社会参画のしくみづくり

- ・高齢者の外出支援の充実
- ・高齢者の就労支援の充実
- ・シニアボランティアの育成・支援

●介護保険サービス内容の充実

- ・居宅サービス(介護給付)の推進
- ・地域密着型サービスの充実
- ・施設・居住系サービスの推進

●介護保険サービス体制の強化

- ・介護保険サービス提供体制の充実
- ・介護保険サービス利用者の権利擁護